

# 令和7年度花壇管理

中川悠・荒木大蔵・西内良

## 花壇の管理状況

季節ごとの作業概要を記録する。今年度は、基本的な植栽デザインや使用した品種は昨年度と同様であるが、昨年度の様子を踏まえ、植栽間隔などの微調整を行った。

なお、植栽に使用した植物は表1に示した通りである。

## 春季

大花壇は、アフリカンマリーゴールド、フレンチマリーゴールド、トレニアを使用した。昨年度、6月中旬から下旬にかけてマリーゴールドの株が枯死してしまったことを踏まえ、今年度は、除草・花がら古葉とり工を6月上旬と下旬の2回に増やし、株間も5cm広げて25cm間隔とした。今年度も昨年度同様に斑点病とみられる症状が現れたが、初期段階でダコニール1000を軽く散布(6月中旬)し、大量に枯死すること無く7月上旬の植え替えまできれいな状態を保つことができた。なお、5月・6月の広島市の平均気温と降水量については、昨年度と同程度であった。

カスケード前花壇は、ベゴニア「ビッグ」のピンク花・銅葉と、赤花・緑葉の2種類を植栽した。昨年度は、ユーフォルビア「ダイヤモンドスノー」も使用したが、生育が極めて悪かったため、今年度は使用しなかった。

レストラン前花壇(ネモフィラ)については、昨年度バックホーを用いて深耕とバーク堆肥のすき込みを行ったことにより水はけは改善されたが、その後の耕耘で肥料むらができしまい、肥料が効き過ぎて生育が良くなり過ぎる箇所ができてしまった。なお、開花時期については、3月下旬に一番花が咲き始め、4月中旬には花数が増えて見ごろを迎えた。その後は4月下旬までは倒伏した株は無かったが5月上旬には倒伏した株が見られるようになった。

## 夏季

大花壇については、7月上旬に植え替えを行い、アンゲロニアとポチュラカを植栽した。昨年度は、花壇の外周にマツバボタンを使用した

後半の生育が良くなかったため、ポチュラカに変更した。ポチュラカは、8月頃は暑さのせい、太陽が出ていても午後から花が閉じてしまっていたが、9月には午後でも開花するようになり、展示期間終了まで元気に咲いてくれた。また、昨年度の反省を活かし、少し草丈が低い白のアンゲロニアを手前に植栽した。なお、この花壇は病害虫の発生は特に無かった。

カスケード前花壇は、春から植え替えは行わず、展示を続けた。この花壇は、3段とも同様に灌水を行っていたが、下から2段目の東側の水切れが激しく、葉が落ちたり、巻いたりしてしまった。そこで、たっぷり灌水を行った直後に2段目の特に生育が悪い部分と、生育に問題が無い部分をそれぞれ30cmほど掘って土の状態を比較した。すると、生育に問題が無い部分は20~25cm程まで水がしみ込んでいるのに対し、生育が悪い部分は10~15cm程までしかしみ込んでいなかった。このことから、土壌の透水性が悪いことが水切れの原因のひとつと考えられたため、冬季の植栽への植え替え時にバックホーを用いての深耕と土壌改良を行うこととした。

大温室横花壇は、4月中旬頃に20cm間隔でフレンチマリーゴールド「ストロベリーブロンド」とセロシヤ「スプリングセレブリティーズ」を植え付けた。この花壇は、7月上旬ごろまでは生育が良かったが、中旬ごろに追肥した後からマリーゴールドに窒素過多とみられる症状が現れた。その後、下旬ごろには中央付近のマリーゴールドがしおれ始め、徐々に同心円状に症状が広がり、発症した株は枯死してしまった。そこで、8月下旬に花壇の前側のマリーゴールドを抜き取り、代わりにポチュラカを植え付けた。ポチュラカも初めは問題なく生育していたが、枯死したマリーゴールドがあった部分のポチュラカは後半には生育が衰え、スベリヒユに飲み込まれるような状態であった。また、スベリヒユの抜き取り時にはハスモンヨトウが大量に見られた。これについては、窒素過多や植え付け時に薬剤を混和しなかったことが原因ではないかと考えられる。マリーゴールドの枯死については、株が緑のまま急にしおれるという症状は青枯れ病と似ているが、維管束の褐変や菌泥は観察されなかった。また、菌核や菌糸も見られなかったため、病気の特定はできなかった。その後、代わりに植えたポチュラカの生育も思

わしくなかったことから、土壤に問題があるのではないかと考える。なお、セロシアはあまり花付きが良くなく、開花後には花穂が枯れこんで見栄えが悪くなった。

レストラン前花壇は、6月中旬に植え付けを行ったヒマワリ‘サンフィニティー’が7月上旬に一番花が開花し、7月中旬に見頃を迎え、8月中旬には花がらが目立つようになった。元肥は、委託の耕耘が入る前に、1㎡当たり牛糞約450 g、油かす約180 g、ようりん約120 gを散布し、追肥は、屋外展示場側の三角形の区画のみ6月下旬・7月下旬・8月中旬に8-8-8を1㎡あたり50～75 g施用し、他の区画は7月下旬・8月中旬に8-8-8を1㎡あたり50～75 g施用した。(表2)なお、2区画の生育について大きな差は見られなかった。

### 秋季

小花壇はテランセラ (*Alternanthera ficoidea*) とサルビア・スプレンドENS‘シズラー サーモン’を植え付けた。昨年度とはサルビアの品種が異なるが、どちらも問題なく生育し、サーモンピンクと黄色の優しい雰囲気の花壇となった。

カスケード前花壇は、9月中旬に植え替えを行い、アルテルナンテラ‘パープルプリンス’、ジニア「プロフェュジョン」シリーズの植栽となった。昨年度は、定植後に気温が高い日があったことでアルテルナンテラ‘パープルプリンス’の葉色が植え付け後1週間ほどで緑になってしまったが、今年度はそのようなことは無く、紫のままであった。

大温室横花壇は、9月上旬に40 cm 間隔でコスモスを植え付けた。品種については、市販されているものを多品種植栽し、品種見本花壇のようにした。

なお、大花壇・小花壇・カスケード前花壇は、いずれも植え付け後2週間程で8-8-8を追肥した。

レストラン前花壇は9月中旬にコスモス‘センセーション’を植え付け、1週間ほど後に補植と追肥を行った。追肥は、8-8-8を1㎡あたり60 g程度となるように施用した。(表2)また、植え付け後2週間程度でうどんこ病対策として薬剤散布(モレスタン3000倍)と支柱立てを行った。開花状況は、9月下旬に1番花が10輪程度咲き、10月中旬には、1番花が咲き揃った。その後、1週間程度で2番花以降も咲き進み、秋のグリー

ンフェア期間(10月下旬～11月上旬)に見ごろを迎えた。コスモスの摘み取り体験は11月9日に実施した。当日の株の状態は、開花中の花の他に蕾も多くあり、あと2～3週間程度はきれいな状態を維持できると思われる様子であった。病害虫については、生育後半に白斑病が見られた。発病株の発見時はうどんこ病の初期症状だと思っていたが、薬剤散布後も病斑の様子が変化しなかったことや、以前白斑病が発生したことがあったことからうどんこ病ではなく白斑病であることが判明した。

### 冬季

冬季は、例年通り「よく咲くスマレ」シリーズをメインにハボタン、シロタエギク、プリムラ‘ガーデンプリムラ アラカルトシュシュ’を11月上旬から中旬にかけて植え付けた。

昨年度より導入した‘よく咲くスマレ ブルーフィズ’の花付きと株姿は同シリーズの他の色と同程度で、‘よく咲くスマレ ソーダ’のように花付きが良すぎることは無かったため、今後はこの色を使用していこうと思う。なお、同じく初導入の‘よく咲くスマレ カシス’については、‘よく咲くスマレ ソーダ’ほどではないが同シリーズの他の色に比べて花付きが良く、茎も伸びがちであった。

各花壇については、昨年度から変更を行ったのは小花壇のみで、‘よく咲くすみれ ミルクセーキ’を‘よく咲くすみれ マシュマロ’に変更し、‘よく咲くすみれ マシュマロ’と‘よく咲くスマレ カシス’の間に‘よく咲くスマレ ライチ’を加えた。‘よく咲くすみれ ミルクセーキ’を変更したのは、この品種内で黄色が強く出る個体の割合が多くなってきたためで、‘よく咲くスマレ ライチ’を加えたのは、白から紫へ変化していくグラデーションを表現するためである。

今年度の冬花壇の植物の様子については、現時点(12月中旬)では特に大きな問題は発生していない。

表1 令和7年度委託花壇使用植物

	春 季	夏 季	秋 季	冬 季
大花壇	アフリカンマリーゴールド ‘ホワイトゴールドマックス’	ポーチュラカ ‘ラヴァ’ミックス	テランセラ ( <i>Alternanthera ficoidea</i> ) 黄	パンジー ‘よく咲くスマレ ライチ’
	フレンチマリーゴールド ‘デュランゴ・タンジェリン’	アンゲロニア ‘セレニータ ホワイト’	テランセラ ( <i>Alternanthera ficoidea</i> ) 橙	シロタエギク
	トレニア ‘カウアイ バーガンディー’	アンゲロニア ‘セレニータ パープル’	テランセラ ( <i>Alternanthera ficoidea</i> ) 赤	ハボタン 赤
				ハボタン 白
				アイスランドポピー
小花壇	トレニア ‘カタリーナ ブルーリバー’	継続	テランセラ ( <i>Alternanthera ficoidea</i> ) 黄	パンジー ‘よく咲くスマレ マシュマロ’
	ベゴニア ‘ビッグ 緑葉 ローズ’		サルビア・スプレndenス ‘シズラー サーモン’	パンジー ‘よく咲くスマレ カシス’
				パンジー ‘よく咲くスマレ ライチ’
カスケード前 花壇	ベゴニア ‘ビッグ 緑葉 レッド’	継続	ジニア ‘プロフェュジョン ダブルイエロー’	パンジー ‘よく咲くスマレ レモネード’
	ベゴニア ‘ビッグ 銅葉 ローズ’		ジニア ‘プロフェュジョン ダブルゴールデン’	パンジー ‘よく咲くスマレ ラベンダーソフト’
			アルテルナンテラ ‘パープルプリンス’	パンジー ‘よく咲くスマレ ブルーフィズ’
イベント広場 北花壇	キンギョソウ ‘トゥイニー’	ラッカセイ (委託外)	継続	パンジー ‘よく咲くスマレ ブルーフィズ’
				プリムラ ‘ガーデンプリムラ アラカルトシュシュ ピンク’
				プリムラ ‘ガーデンプリムラ アラカルトシュシュ ホワイト’
				プリムラ ‘ガーデンプリムラ アラカルトシュシュ イエロー’
レストラン前	ネモフィラ ‘インシグニスブルー’ ( <i>Nemophila menziensis</i> )	ヒマワリ ‘サンフィニティー’	コスモス ‘センセーション’	ネモフィラ ‘インシグニスブルー’ ( <i>Nemophila menziensis</i> )
	1月上～中旬 セルトレイ苗定植 (委託外)			1月上～中旬 セルトレイ苗定植予定 (委託外)

表2 レストラン前花壇の元肥と追肥の施用量と時期 (1㎡あたり)

	元 肥	追 肥
ヒマワリ ‘サンフィニティー’	牛ふん堆肥：400 g、油かす：150 g、 ようりん：100 g 6月中旬	8-8-8：50 g～75 g 6月下旬・7月下旬・8月中旬
コスモス ‘センセーション’	なし	8-8-8：60 g 9月中旬
ネモフィラ ‘インシグニスブルー’	牛ふん堆肥：400 g、油かす：150 g、 ようりん：100 g 12月中旬	本稿執筆時は未定